

エディトリアル

地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター センター長 中村正和

情報通信技術 (ICT: Information and Communication Technology) の進展は目覚ましく、医療の現場にも導入が始まっている。ICTの医療への応用は、患者や利用者の利便性や治療へのアドヒアランスの改善を通して、治療効果を向上させることが期待できる。

本特集では、ICTを活用した生活習慣改善のための行動変容支援をテーマとして取りあげ、地域医療の現場で実践または利用可能な方法を具体的に紹介する。

最初に野村章洋氏、佐竹晃太氏からスマートフォンアプリを活用したデジタル治療の開発の国際的な動向と、わが国における高血圧やニコチン依存症の治療アプリの開発状況や有効性試験の結果について紹介していただいた。ニコチン依存症の治療アプリは心理的依存への介入を目的とするものであるが、対面診療に比較して効果が劣らないことが確認されており、今後、保険診療による禁煙治療において利用可能となる日は近いと思われる。次に、野村恵里氏、津下一代氏から、IoTデバイス(活動量計、体組成計、血圧計)とスマートフォンアプリを用いた2型糖尿病の重症化予防の実際と効果検証の現状について紹介していただいた。IoTデバイスとアプリを用いることにより、患者に対して体重コントロール等のための生活習慣改善に対して日常的支援が可能となるだけでなく、医療者にとっても患者のデバイス等の日常行動データをもとに指導や助言が可能となる。これまでの効果検証においてHbA1cの改善や薬剤の減少の効果が得られている。柳真紀氏には、特定健診・特定保健指導制度において、2013年度から利用が認められるようになった遠隔特定保健指導について、その実践経験をもとに、遠隔で実施することによる利点や欠点を解説していただいた。また、田那村雅子氏から、2017年7月の厚生労働省医政局長通知により自由診療での実施が可能となったオンライン診療による禁煙治療について、その具体的な方法、オンライン診療の利点と欠点を述べていただいた。最後に、鷺尾幸子氏から、行動経済学のナッジとしても注目されているインセンティブ行動療法について、その概説に加えて、米国の低所得者を対象とした母乳育児へのインセンティブ行動療法の実際とICT活用の可能性について述べていただいた。

本特集を通じて、ICTの行動変容支援への活用について読者の理解が深まり、ICTの特徴や限界を踏まえ、地域医療の現場で効果的に活用されることになれば幸いである。